

～三重に生まれ育つすべての子どもに途切れのない支援を～

THE 市町支援通信



あすなろ学園市町支援グループでは、
「途切れのない支援システム」の構築を協働支援します

三重県に生まれ育つすべての子どもの発達保障・子育て支援を目指し、あすなろ学園は多くの市町と協働しながら、以下の取り組みを進めています。

- ① 発達総合支援室（保健・福祉・教育等部局を一元化した室）又は機能の設置
- ② 「3歳児発達チェック」「5歳児発達チェック」の施行、「個別の指導計画」の作成、巡回指導による支援スキルの導入
- ③ みえ発達障がい支援システムアドバイザーの育成（あすなろ学園での1年間研修）

目利き 腕利き 巡回指導

～ステキな先生 子どもが主役になれる園 発見！～

あすなろ学園こどもの発達総合支援室市町支援グループは、春季と秋季に年2回の巡回指導をしています。平成21年12月末で、18市町のべ198園360ケースを行いました。春季巡回後も熱心に日々の保育や教育に取り組まれ、具体的な支援により、子どもたちの成長が多数見られました。巡回指導には各市町の

保健、福祉、教育の三部署の職員さんにも同行していただきました。今年度から担当となった行政職員さんは「え～！びっくりしましたわ！！こんなにも成長するんですね。きっと、先生もお母さんもうれしいでしょうね」と話されました。

そこで、以下に秋季巡回指導で出会ったステキな園、ステキな先生を紹介します。



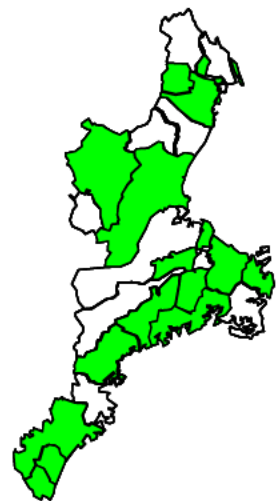
春には先生がクラスみんなに「お片付けしますよ」と声をかけても、「今、片付けをするということ」が分からず、テレビコマーシャルを言いながら電車を並べていたAくん。そこで、「今、何をするのか」「次に何をするのか」を絵カードにして伝えるようお願いしました。秋には、「絵カードがあると驚く程行動がスムーズになりました」と担任の先生が言われるように、みんなと一緒に片付けたり、給食の準備ができるようになっていました。絵カードにより、見通しが持て、活動がスムーズになった取り組みでした。

春には、自由あそびの時間に何をしたいかわからず、ついつい友達のおもちゃをとりあげ、トラブルになっていたBくん。先生が中心となって遊びに誘ってもらおうとアドバイスをしました。秋には、「引越しゲーム（陣取り）」をしたり、砂場で先生の真似をしてお山を作ったり、楽しく遊ぶ姿が見られました。先生がBくんの手をとり遊ぶことにより、あそび方がわかり、「楽しかった」「またやりたい」と思い、あそびが広がった実践でした。



春には「先生どうするの？」「わからん」という声が飛び交い、困っていた4歳児クラス。さっそく、クラス全体用の折り紙の工程表を作り、さらに苦手な子どもには“〇〇ちゃん用”を作りました。秋には全員が折り紙を楽しみ、できあがり喜んでいました。視覚支援を活用したわかりやすい保育でした。

平成21年度
あすなろ学園巡回指導市町



この5年間をふりかえって

亀山市保健福祉部 子ども総合支援室長 志村浩二

先日、行われたあすなる学園祭は、私にとっては特別な意味がある。私にとっての亀山市子ども総合支援室のルーツは、5年前の学園祭にさかのぼる…当時、あすなる職員であった私に、こどもの発達支援室長の中村副参事(当時は指導室長)が、“亀山市はどう?”とのおたずねに始まる。意味の分からない私は「もし手がけるなら亀山市はいい…親切味がありそうですから」と、お答えしたのを覚えている。当時亀山市からは、既に宮崎保育士と岡保健師が派遣されていたので、私はこの言葉を「亀山市の発達支援策展開の etude(練習曲)」程度にしか捉えていなかったが、実は「あすなる学園の市町システム構築のための prelude(前奏曲)」であることに全く気付いていなかった…

ところで市町のとぎれない支援体制のシステム化の上で大きな課題になるのは、タテ割り意識からくる連携感覚の弱さ・専門性の希薄さ・問題対応時における依存性、の3点()と考えており、17年度当時の亀山市も同様であった。あすなる学園は、この現況を抱えていた亀山市に対して、足を運んで下さり、()に対応する)保健・福祉・教育の協働体制の重要性を、医療の立場から継続的に指示下さった。それは単なる指導ではなく、ベンチマーキング等を通して()に対応する)共同研究の形で専門性を高めるべくサポートいただいた。中村副参事は、どうも亀山市子ども総合支援室を「成長モデル」と考えておられたようで、17年度はいい意味で「介入」を多くいただき、18・19年度からは「お声がけ・お誘い」に変わり、20年度以降は「対外的に評価」していただく形になってきたように、私共の「自立」の度合いに合わせて関わって下さった。おかげで、前述2名に加え、佐藤保育士・瀧美指導主事の計4名を派遣させていただき、持ち帰った素養を各々の専門性に色付けして、しかもその専門性にこだわることなく「色々な専門性を時機に使い分けることが、市町における『専門性』である」メタな支援体制も、整ってきたと感じている(これは)に対応している)。

ところで私共の取り組みを“亀山市だからできたんでしょ!?”と仰せの方もおられる。地域事情や街の規模も異なる市町だから、それぞれのやり方があると思う。“だから”と言うのは、自身の地域に根差したニーズや発想を放棄しているのではないかと感じる時がある。私はむしろ『亀山市らしくやった』と考えている。その意味では、その地域の「当事者の声を聴く」ことがシステム構築の近道であり不可欠なのではないだろうか…

実は来年度から亀山市では「子ども総合センター」構想があり、とぎれない支援をする当室と、子ども施策の充実を図る部室とで構成される「子ども支援の一元化」をめざした部門に発展する予定である。あすなる学園のサポートがなければやって来れなかった。5年ひと区切りでもないが、紙面を借りてお礼を申し上げたく、冗長な文章を寄稿申し上げた。どうもありがとうございました。

『市町村におけるこれからの子どもの相談とは?』分担執筆『システム論からみた援助組織の協働(吉川悟編)』金剛出版 2009

『市町村における児童家庭相談の実体と今後の課題』分担執筆『子どもと福祉』明石書店 2009

今、三重県がブームです！

三重県の途切れのない支援システム構築の取り組みが注目を集め、視察が相次いでいます。栃木県宇都宮市子ども発達センター（9/29）、埼玉県深谷市議会（10/2）、岐阜県加茂郡白川町教育委員会（10/21）、東京都八王子市議会（10/28）、岐阜県多治見市議会（11/10）、兵庫県伊丹市きぼう園（12/15）が来園されました。また、第50回日本児童青年精神医学会や第18回日本LD学会にて発表を行いました。“わかりやすい個別の指導計画の立て方DVD”の申し込みも県外から20件近くありました。

「早期の対応により大きくこどもの育ちが変化、変容することを再認識した」支援者育成の観点からも三重県の取り組みは大切」等の意見を頂き、取り組み始める自治体が全国に広がっています。



東京都八王子市議会（10/28）あすなる学園

アドバイザー研修会(ミニ学会)開催



アドバイザー研修会（11/14）あすなる学園

あすなる学園での1年間の研修を終え、昨年、三重県知事より認定された“みえ発達障がい支援システムアドバイザー”と今年度の研修者が参加しました。この研修会は、専門的な知識・技能を持って地域のリーダー的役割を果たしているアドバイザー相互の連携や専門性の向上を目的に行われました。今後も定期的に開催する予定です。

今回は事例検討と活動報告を行いました。事例は亀山市の岡アドバイザーより提案され、「他機関や人とのつながりを大事にしなが、チームで関わり、多角的にケースを見ることが大切」と強く訴えられました。活動報告では、志摩市の谷、川口両アドバイザーより保育所、幼稚園での個別療育が効果をあげていること等が報告されました。

市町の取り組み紹介

～市町の先駆的な取り組みを紹介します～

いなべ市

こども総合支援室（チャイルドサポート）
藤本アドバイザー 藤川アドバイザー

ステップアップ教室の開催

- ・形態：週1回、1時間の集団療育（4～5名）
- ・対象：対人関係や感情コントロールの難しい児
- ・場所：いなべ市北勢福祉センター
- ・いなべ市の特徴

スタッフとして対象児の担当保育士が教室に参加するため、園からの情報を即、教室に反映させることが可能です。また教室での支援方法を即、保育に活用できます。

保護者はこどもの観察、言語聴覚士や心理士からのミニ講座、フリートーク、個別面談など子育ての情報共有とともに、地域でのサポート体制を知ることができます。

志摩市

ふくし総合支援室
谷アドバイザー 川口アドバイザー

保育所、幼稚園での個別支援のサポート

- ・形態：毎日、登園後15～30分
（子どもに合わせて対応しています）
保育士との個別療育
- ・対象：個別支援を必要とする児
- ・場所：子どもが通っている保育所、幼稚園
- ・志摩市の特徴

保護者の思いをくみ取り、先生方と連携を取りながら発達チェックリストをもとに、個別の指導計画を作成するお手伝いをしています。

アドバイザーが定期的に訪問し、支援グッズの紹介やプログラムの作成、療育の仕方等の支援をしています。

☆ シリーズ Q&A part 3 ☆

Q

1年生になって困らないか心配です

年長のCくんはスムーズに次の活動へ切り替えられません。保育園では工夫をして、Cくんがうまく切り替えられる支援方法を見つけましたが、1年生になった姿を想像すると、Cくんも1年生の先生も困らないか心配です。引き継ぎ会ではどのようなことを学校に伝えるとよいでしょうか。

A

“このようにすればうまくいく”等、具体的な支援を引き継ぎます

Cくんがうまく切り替えられるようになった保育園での支援方法を具体的に伝えます。

- ・「～が終わったら、大好きな遊びかけっこをしよう。」とCくんの好きなことを用意した
- ・活動のはじめと活動が終わる5分前に終わりと次の活動を予告した。特に絵を描くことが好きで、なかなか終われないときは、タイマーを使って終わりを示すと切り上げられた など。

園と同じ対応をすることで、子どもは安心し、園の先生から学校の先生へとキーパーソンが引き継がれていきます。1年生の先生には先生なりの支援方法があるかもしれませんが、アレンジするのは園から引き継がれた支援が定着してからにしましょう。

1年生になった姿を予測し、対応方法を検討します

学校場面を予測し、就学までに保育園で取り組める課題や小学校での支援を考えます。例えば、チャイムで行動する、45分間離席しないで授業を受ける、時間割を中心に学校生活を送ること等が学校と保育園では違います。

<就学までに保育園で取り組める課題>

チャイムで動けるようになるため、保育園でも事前に予告し、音楽がなったら片付ける、ベルの合図で動くなど、先生が合図を示して動く習慣をつけます。

時間割で行動するため、保育園でもスケジュール表(1日の予定表)を示します。

インフォメーション

みえ発達障がい支援セミナー/第3回特別支援教育フォーラム in みえ ～早期からの途切れのない支援をめざして～

日時：平成22年2月7日(日)13時～16時 場所：三重県総合文化センター中ホール

基調講演：気になる子への子育て支援～家庭、保育現場、学校でできること～ 曾山和彦先生

2009年 12月 21日

<発行> 三重県立小児心療センター あすなる学園 広報担当：こどもの発達総合支援室 市町支援グループ
〒514-0818 三重県津市城山1-12-3 TEL:059-234-8700 FAX:059-234-9361
MAIL: asunaro@pref.mie.jp URL: http://www.pref.mie.jp/ASUNARO/HP/